

2023年度 活動テーマ

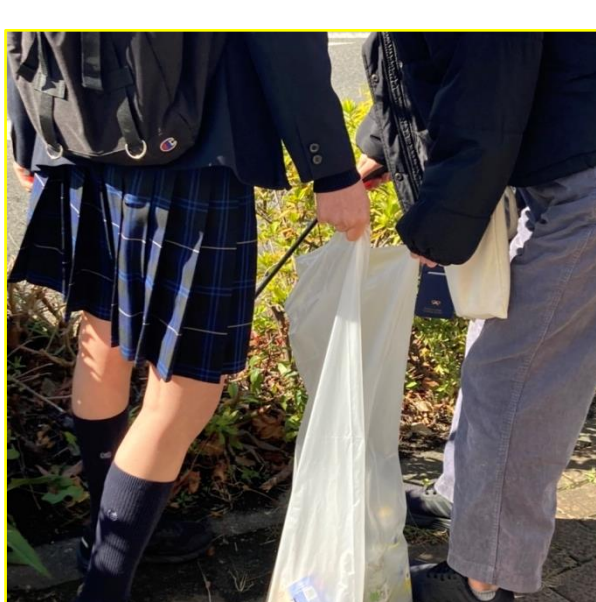
「幸せをすべての人へ」

一 笑顔伝える 一

桐蔭学園インターアクトクラブは1981年に設立され、約40年の歴史を持つ部活です。今では部員数約50人となり、地域清掃などの環境保全、防災イベントや被災地支援などの防災活動、地域イベントでのボランティアなどの地域活性化活動、国際理解、発展途上国支援、募金活動を中心に活動しています。

週1回の定例会では、活動の反省や今後に向けての準備を行い、お互いをより高めあい大切な仲間となるように部員同士の交流の機会なども積極的に設けています。休日は月2回程度校外に赴き、募金活動や清掃活動、地域のお祭りのボランティアなどの校外活動を行っています。私たちは日々の活動も大切にしながら新たな活動へと広がっています。

桐蔭学園インターアクトクラブでは「自分にできることを楽しみながら活動する」を意識して日々活動しています。誰かのためにだけでなく、自分に何ができるのかを考えて、楽しむことで笑顔を送る「すべての人へ幸せを届けること」を目的としています。自分たちが楽しむことで笑顔が生まれ、その笑顔が輪のように伝わってすべての人に、過去を振り返った時にふと楽しかったなと思える瞬間を共有したいと考えています。グローバル化が進み、世界全体で解決されるべき問題が存在している社会では、一体となり、支え合い繋がることを求められています。遠く離れた外国の人も私たちのそばにいてくれる友達や家族も、同じときや空間を共有する仲間のような存在です。そんな仲間といえる人々の幸せも、今の世の中では、私たちの幸せに繋がっています。だからこそ私たちは関わる人すべての幸せを願っています。また、小さな取り組みひとつひとつ積み重ねていくことで大きな変化へと繋がっていくと考えています。そこで、私たちは「見えない努力」に注目しています。世の中には表面に伝わる「見える努力」もあれば、それを影で支えるように裏側に広がっている「見えない努力」も存在しています。そのため、私たちは小さな取り組みにも力をいれ活動しています。数年後には成人し、社会人の仲間入りとなり、私たちがこれからの未来を担う存在になります。私たちの活動が未来に貢献できるように、日々積極的に活動するという意志をもって今後も取り組んでいこうと考えています。



○ハマロード

横浜市の身近な道路の清掃や美化活動等を行う「ハマロード・サポーター」としてボランティアに参加しています。2ヶ月に1回、桐蔭学園近隣や江田駅・市が尾駅周辺でのゴミ拾いを行い、誰もが過ごしやすい綺麗な街づくりを目指しています。



○募金活動



○コンタクト空ケース回収

アイシティecoプロジェクトという、使い捨てコンタクトレンズの空ケースをリサイクルする活動に参加しています。校内数箇所に回収ボックスを設置し、集まった空ケースを年に一度集計して回収業者へ送っています。送る際には空ケースにアルミシールが付いたままになっていないか、一つひとつ丁寧に確認の作業をしています。昨年度は30,520個、30.52kgの空ケースが集まり、一昨年度の集計結果よりも、多くの空ケースを集めることが出来ました。回収後、空ケースはリサイクル業者に買い取られ、その収益は日本アイハック協会に全額寄付されます。寄付されたお金は、角膜の病気により視覚障がいのある方の視力回復のために役立てられます。また、空ケースをゴミとして燃やすのではなく、リサイクルすることでCO2排出量の削減に貢献しています。

○震災伝承イベントへの参加

藤が丘地区センターで開催された「3.11を忘れない 忘れないをカタチに2023」というイベントに参加しました。このイベントは2012年にはじまり、桐蔭学園インターアクトクラブは2017年から設営に携わらせていただいています。イベントでは、東日本大震災を経験された2名の語り部の方を講師としてお招きし、当時の状況や被災地の現状など、貴重なお話をしていただきました。東日本大震災から12年という年月が経った今、改めて、当たり前の日常を奪う震災というものの怖さについて考え、防災意識を高めるきっかけとなりました。



○フェアトレード品販売

国際協力NGO団体「Act for Child」と連携し、地域のイベントや学園祭でフェアトレード品の販売をしています。販売しているフェアトレード品はすべてタイ・ミャンマーの少数民族の方々の手作りで、売上の一部は主にミャンマーの子ども達への教育支援に役立てられます。最初は慣れなかつた接客ですが、回を重ねるごとに商品の魅力を上手に伝え、多くの人に購入していただけるようになりました。



○ミャンマー学習会

「Act for Child」が開催する、ミャンマーの現状や問題を知る学習会に参加しました。講座を受けたり、参加者同士でのディスカッションを行ったりするなど、今まで意識してこなかった異国のことについて深く考えることが出来ました。



被災地訪問

コロナにより中止となっていた東日本大震災の被災地、石巻訪問を3年ぶりに行いました。1泊2日の訪問の中で震災について深く知り、学ぶことができました。自分の足で被災地を訪れ、震災の空気に触れることで私たちに今できること、すべきことはなにか考えることができました。



トルコ・シリア地震救援金

今年2月、トルコ・シリア国境付近で発生した地震により被災された方に対する募金活動を行いました。活動は桜木町駅広場で3回に分けて行い総額389,201円が集まりました。寄付先は部員で話し合い、日本赤十字社に寄付させていただきました。



高齢者障がい者体験

今年で2回目となる、桐蔭マルシェで高齢者・障がい者体験を実施しました。桐蔭マルシェとは桐蔭学園の敷地内で開催される、地域交流を目的としたイベントです。私たちインターアクトクラブのブースでは、SDGs関連の企画を部員で考え、白内障や緑内障といった視覚障害の体験ができるメガネを装着し、腕に重しや関節を動きづらくするサポーターをつけて腕の動きを制限した状態で大豆や小豆を移動させる、という企画を実施しました。体験された方からは、「集中力が必要だった」「思ったよりも不便だった」など、様々な感想をいただきました。



一 繋がりを楽しみ、新しい一歩へ 一

私たちは今後、外部関係者との交流を深め、繋がりの輪を広げていきたいと考えています。

主に他校、地域との関わりに注目して活動の幅を広げていこうと考えています。

他校との交流では、現在私たちは合同募金活動や親睦会などで他校とコミュニケーションを取っていますが、その枠にとらわれず新しい活動の企画や合同ミーティングを行うことで、同じ世代の仲間からの刺激を受け、部員一人一人が自分自身を見つめ成長できる機会を増やしたいと考えています。異なる背景や経験を聞くことで広い視野を持ち、互いに意見を出し話し合い、高め合うことでより良いパフォーマンスを届けられるよう精進します。

地域との交流では、普段から地域との交流をし、地域全体でのまとまりを作ることで、街づくりに貢献することを目的とします。現在の活動として、横浜市青葉区のハマロード・サポーターに参加をし、清掃活動を行っています。また、横浜市の公益財団法人よこはまユースの方々との連携、地域のお祭りでのフェアトレード品販売や出展ブースのお手伝いを行っています。今後は学校付近のハマロードの回数を今よりも増やして、地域の清掃活動に取り組んでいき、クラブとして市内で行われているボランティアにより積極的に参加し、よりよい街づくりに貢献していきます。地域全体でのまとまりは防災時の共助、より良い街づくり、地域おこしに繋がります。コロナ禍で交流が制限されていた地域との繋がりを再建するために、私たちは小さな一つ一つの行動を起こしていきます。

また、クラブとして成長するために現在の活動のみならず、自分たちで一から作り上げる活動に挑戦しようと考えています。部員数が増え規模が大きくなった今だからこそ、強みを生かして受け身でなく発信していくクラブとなれるよう心がけます。

バトンをつなぐ、未来を築く。



桐蔭学園
インターアクトクラブ



1981年に成立、40年の歴史を誇る伝統クラブ。
51人の部員数で活動。
活動を通して社会貢献をすると共に、
個人のスキルや知識を深めている。

Facebook: <https://www.facebook.com/toin.iaac>
Instagram: @toin_interact.club

